

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年9月6日
京都市立紫明小学校
校長 石田 淳

今年度、4月18日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。生活習慣と学力との関係などについて、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・算数）】

国語科、算数科2教科とも、全国ならびに京都府公立小学校の平均正答率を上回る結果で、学力が定着していることが分かります。国語科では全国より13.3%、京都府より11.0%上回っています。算数科では全国より16.5%、京都府より14.0%上回っています。また無解答率も少なく、「解らない」「できない」と諦めず、自分なりに答えを導きだそうとしている様子が見られます。

【国語】

全体的によくできています。特に「学校の良さを伝える文章を書くためのメモから、筆者の考え方として説明したものを適切に選ぶ」【2-(1)】「集めた情報や図などを用いて作った筆者のメモについて説明したものを適切に選ぶ」【2-(2)】「登場人物の心情などについて、本文の描写をもとに捉えることができる」【3ニ(1)】という問題は全国平均をかなり上回る結果でした。また、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる」という言語の特徴や使い方に関する問題も全国平均を大きく上回っていました。

一方で、「文を読み、人物像を具体的に想像することができる」【3ニ(2)】という問題では、全国平均を0.3%、京都府平均を0.1%下回り、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」【2ニ】問題では、全国平均を上回っているものの正答率が低かったです。

これらのことから、必要な情報から具体的に想像することや、必要な情報から自分の考えを書く際、引用したり決められた条件や文字数で書いたりすることにおいて課題が見られました。

【算数】

全ての問題で全国・京都府平均を上回る結果でした。特に、全国平均を20%以上上回った問題が16問中8問ありました。その中でも「数量の関係を□を用いた式に表すことができる。」【1(2)】「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。」【2(2)】「直方体の見取り図をかくことができる。」【3(1)】「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。」【3(2)】「 $540 \div 0.6$ の計算ができる。」【4(1)】など以上の問題は、正答率も高く、よくできています。

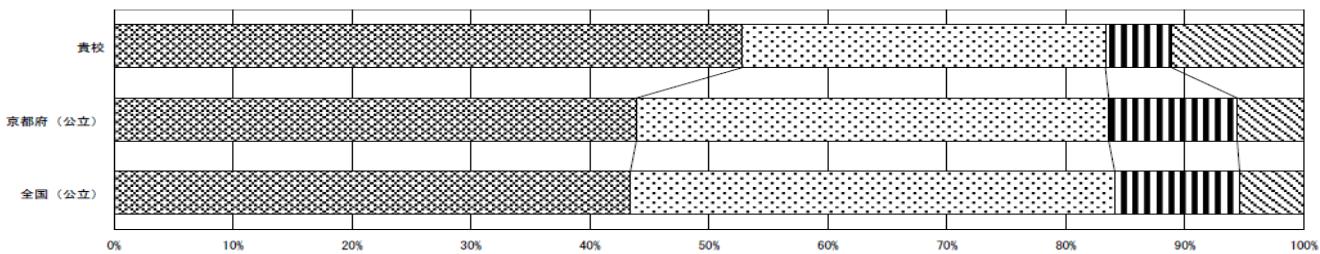
一方で、全国・京都府平均を上回ってはいますが、6年生全体の正答率が70%に達していない問題がいくつかありました。「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式がかける。」【3(3)】、「道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。」【4(3)】、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り式に表し、条件にあてはまるなどを言葉と数を用いて記述できる。」【5(3)】、「示された情報を基に、表から必要な数量を読み取り式に表し、基準値を超えるかどうか判断できる」【5(4)】の4問は、正答率が70%以下でした。

このことから、式を見て計算することについては、かなり正確にできるが、答えを導いた根拠や過程の説明については、課題が見られました。

【児童質問紙より】

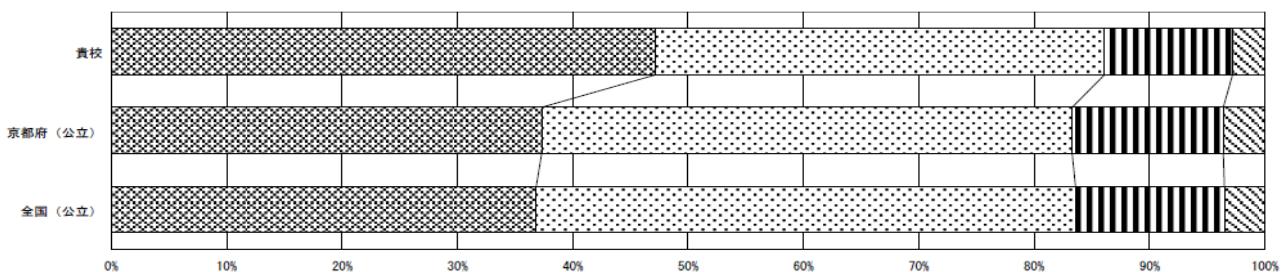
□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答

◎自分には、よいところがあると思いますか(9)



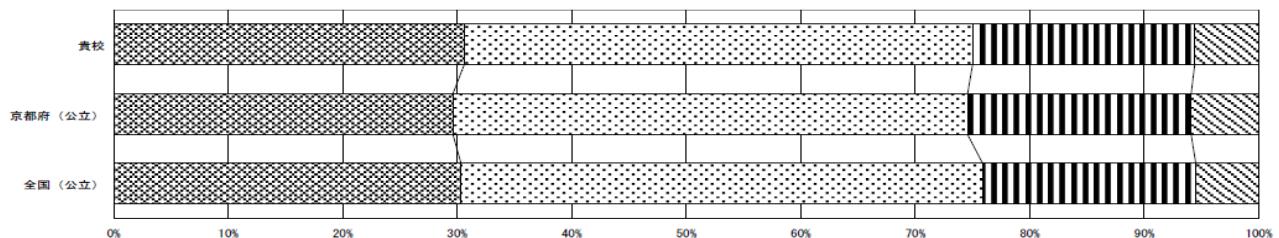
この質問ではプラス評価（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が 83.4%でした。特に「当てはまる」と答えた児童が 52.8%と全国・京都府とくらべて高い値になっています。今後、マイナス評価をしている 16.7%の児童が、学校での学習や活動、生活の中で「自分のよさ」を感じる機会を持つことが大切だと思います。学校では、2 学期も児童が活躍する場面や機会を設定し、「自分のよさ」を実感できるように支援したいと考えています。

◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（25）



「当てはまる」と答えた児童が 47.2%と全国・京都府と比べて約 10%高くなっています。「どちらかといえば、当てはまる」と合わせると 86.1%でした。これは全国、京都府平均より約 3%高い結果となりました。本校では、低学年から地域の方と七夕の集いやひな祭りの集いなどの交流をしてきました。また、生活科や社会科で地域を調べる学習をしたり、総合的な学習の時間で社会福祉や環境にも目を向け、ゲストティーチャーとして地域の方に来ていただき、交流したりしてきました。このような繋がりから、「自分たちにもできることがあるのではないか」、「一緒に何かをしてみたい」という協働的な考え方や思いが育つのではないかと考えています。今後もこうした学習や活動を大切にしたいと思います。

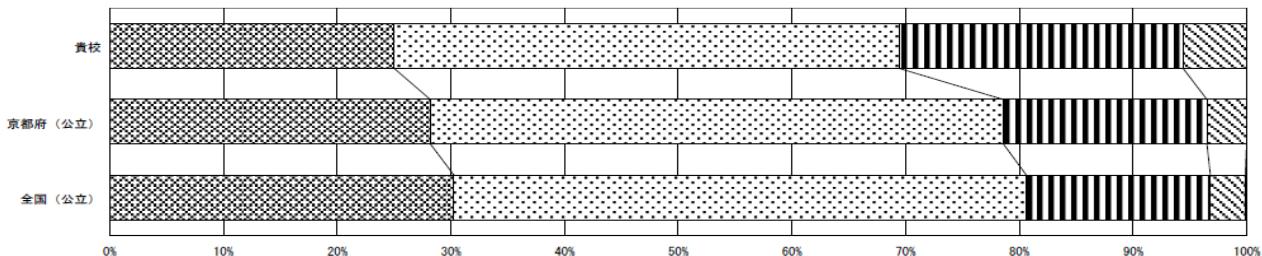
◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(17)



この質問では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が、全国に比べて0.8%少なくなりました。しかし、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると全国・京都府平均とほぼ同じ程度のプラス評価となっています。

本校では「つけたい力」として「目を見て聞き、話し、考える力」をあげています。学習の場面でも話し合いの機会を設け、児童同士で考えや意見を伝えあうようにしています。他にも、高学年の児童を中心に、縦割りグループでの遊びについてや、人権について話し合う機会を作っています。今後もつけたい力をめざして「話し合い」や「交流」の機会を大切にしていきたいと思います。

◎分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか(20)



この質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が、69.4%全校平均より11.3%、京都府平均より、9.2%低かったです。「知ろうとすること」や「わからうとすること」に対する関心が低いことが気になります。さらに力を伸ばしていくためにも、分からることや詳しく知りたいことに対して、意欲的に調べたり、積極的に考えたりできるような姿勢も大切にしてほしいと思います。授業では、計算問題で正確な答えを出すような学習でなく、児童が「面白そうだ」「もう少し調べてみたいな」と思えるような機会を作ることを心がけたいと思います。

今年度、「ともに～つながろう 創り上げよう～」を教育目標として、児童に提示しています。そのために教科学習だけでなく、学校行事等の様々な取組の中に、その機会を作っています。今後も学校と家庭の連携で学習効果を高めていくようにしていきたいと考えます。子どもたちの健やかな育ちと充実した学びの実現にご協力をお願いします。